

## 令和2年度「宇都宮市学校教育推進懇談会」会議録

■ 日時 令和2年10月16日（金）10：30～12：00

■ 会場 宇都宮市庁舎14A会議室

### ■ 出席者

委員： 藤井 佐知子 会長，福田 治久 副会長，若園 雄志郎 委員，永井 寛 委員，  
新妻 克隆 委員，竹島 由里子 委員，松村 典男 委員，今井 政範 委員，  
上野 栄一 委員，菅谷 毅 委員，松本 和士 委員，菊地 明男 委員

事務局： 教育長，教育次長，学校教育担当次長，教育企画課長，教育企画課総務担当主幹，  
学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，生涯学習課長，文化課長，  
スポーツ振興課長，教育センター所長，学校教育課課長補佐他

### ■ 委員からの主な意見・質問等（要旨）

#### ○「第2次宇都宮市学校教育推進計画」令和元年度推進状況について

（資料2のうち基本目標1，2）

今井委員：基本目標1（2）の宮っ子心の教育表彰で，表彰を受けた児童生徒にはどのような変化があるのか，またどういう気持ちを持つのか。表彰されるだけではもったいない。他の児童生徒も受賞したいと思わせるようにする必要がある。

事務局：毎年継続して行っていることで，学校生活改善に向けた意欲付けにつながっている（学校教育課）る。教育委員会と学校が連携し，長期的に行っていることで効果が上がっているものと捉えている。

藤井会長：学級から毎年一人選んでいるのか。

事務局：枠として選ぶことができる。宮っ子心の教育表彰のうち，教育長奨励賞は前期と（学校教育課）後期で各学級1名，教育委員会賞は学校1名表彰される。

今井委員：選び方は，学校判断か。友達同士による評価など選び方の把握はしているのか。

事務局：学校判断で選ぶ。基本的には，学級担任の推薦で選んでおり，友達の相互評価で（学校教育課）は選んでいない。ただし，学級担任1人で決めることは無く，校内で検討した上で決めている。

松本委員：相互評価は難しいので，学級担任を中心に決めている。学年及び学校で検討して選んでいる。表彰するにあたっては，趣旨等を児童生徒に伝え，どういう根拠で表彰されたのかについても説明している。

松村委員：善い行いが多くの子供に広がるのが大切である。各児童生徒に善い行いとはどのようなのか具体的に周知することで，思いやりの気持ちを行動化させるのが大切である。授業の中で友達を思いやる話し合い活動ができるようになると，対話的な学びがうまくいったり，深い学びにもなっていくものと考えている。善い行いの内容を子供自ら広げることが大切だと思うので，その方法等を各学校や教育委員会でやっていただくと更に良いのではないかと。数値は良いので教育の成果が上がっている。善い行いが多くに広がることを希望している。

永井委員：基本目標1（3）新体力テストの結果について，数値が低下傾向にあるように見え，数値を上げるような取組が必要だと思うが，今後の取組について説明を願う。

事務局：全国的な傾向として数値が低下している状況である。国の調査などで考えられる（学校健康課）のは，最近の猛暑の影響で部活動の中止や外遊びが減少していること，また家庭

での過ごし方の変化などいろいろな要因が重なった結果であるということである。本市では、各学校において「宇都宮元気っ子プロジェクト」、「宇都宮版ミニマム」などにより、児童生徒の目標を明確化し、楽しみながら運動に取り組むことができるようにしている。「宇都宮元気っ子チャレンジ」では、3x3を広めたり、みんなで協力してできるように長縄跳び等に取り組んだりもしている。また、体力サポーター事業として市内のプロスポーツチームにも協力をいただき、特別授業の中で運動の楽しさを味わってもらえるような様々な取り組みをしている。また、家庭と協働した運動習慣の形成にも力を入れており、向上のためには、食育や保健教育と一体化して取り組んでいくことが必要であると考えている。今後とも、体力・食育・保健・学校安全の4つの柱をしっかりと行い数値を挙げる努力をしていきたいと考えている。

若園委員：基本目標1（4）指標④の数値は下がっているが、補足指標⑤の数値は上がっている。自分のよさを人のために生かすことが将来の夢や目標につながっていくというつながりを感じるができないのが原因ではないか。どのように分析しているのか。

事務局（学校教育課）：指標④の数値は若干下がっているが、市としては大きな変化は無いと捉えており、引き続き、自己肯定感を育む指導を重視して取り組んでいく。また、宮・未来キャリアパスポートを使って、段階的にキャリア形成できるように取り組んでいるが、夢や目標を考えたり、達成したりする場が必要だと考えており、その中核である宮っ子チャレンジウィークを中心に、修学旅行などでもキャリア教育の視点を加えたり、市施設めぐりなどでも働く人たちの声を聞いたりするなど、本市独自の取組などにおいても、キャリア形成の視点を加えて取り組んでいる。

菊地委員：宮っ子チャレンジウィークがキャリア教育の中軸となっている。そこに向かって小学校でもいろいろな機会を設けており、その流れを受けて、本校では中1で働く人の話を聞く機会を設け、宮っ子チャレンジにつなげている。宮っ子チャレンジで子供の姿は大きく変わり、仕事に関する認識が非常に高まる。しかし、そのことが夢や目標を持っているという回答に直接つながるとは限らない。各校で継続していくことが大切であると考えている。

上野委員：基本目標2の「宇都宮学」を楽しみにしている。作新学院では、宇都宮市が作成した「宇都宮空襲」の資料を子供たちに紹介している。自分達が住んでいる宇都宮市の良さを認識させるためにも「宇都宮学」の中で資料を活用するなどして郷土愛が育まれるよう、令和3年度実施の中学校版の準備をしてほしい。

新妻委員：基本目標2（4）持続可能な社会について。宇都宮はSDGs未来都市に選ばれたこともあり、SDGsの宇都宮バージョンを作成したら身近に感じることができると思う。SDGs宇都宮バージョンを作ってみたらどうか。

事務局（学校教育課）：宇都宮空襲及びSDGsについては、宇都宮学の中学校版副読本に盛りこむ予定となっている。

藤井会長：宇都宮大学では、SDGsを教えられる教員を育てたいと考えている。連携できればと思う。

## ○「第2次宇都宮市学校教育推進計画」について（資料2のうち基本目標3，4，5，6）

竹島委員：基本目標6（2）の今後の予定について、ICT端末を宇都宮市小中学校児童生徒全員に配備するのか。また、家には持ち帰らないものなのか。

事務局（学校管理課）：令和2年度に4万台超を整備し、市内小中学校児童生徒全員に一人1台整備する。とともに、各教室に無線LANも整備する。また、使い方としては、授業中の任

用をメインとしているが、家庭への持ち帰りについて、ルールの検討をしており、整い次第家庭学習でも使えるようになる予定である。

若園委員：今の話は、基本目標3の(2)や不登校に関連してくると思う。学校になじめない子供たちに影響があるかではないか。

事務局：コロナ禍において、学びポケットやe-boardを5月に導入した。その時の感触か(学校教育課)ら、今後整備される1人1台端末を不登校児童生徒にも活用できると考えている。

若園委員：欠席などの数値が改善するものと期待している。

松村委員：基本目標6(2)のGIGAスクール構想について。GIGAスクール構想に関連した授業の公開研究会にオンラインで参加した。主体的・対話的で深い学びにつながるICTにおける良い活用の仕方が、宇都宮でも広まるとよいと考えている。

事務局：ICTを日常的に、また文具的に使っていく。授業では、協働学習において、意(学校教育課)見交換ができるようにしたいと考えている。学び合いが可能となるソフトの導入も予定しており、有効活用していきたい。

松村委員：宇都宮大学附属中ではホワイトボードをICTの掲示板的に利用をしていた。ICT端末が整備される前であっても実施は可能であると思う。発表だけでは終わらず、深い学びにすることが大切である。

新妻委員：メディアリテラシー、SNSでの誹謗中傷など、どう教育していくのか。

事務局：各学校に情報モラル指導計画があり、学年に応じて指導していくようになってい(教育センター)る。

藤井会長：先生方自身がICTを使いこなしていかななくてはならない。大変だが、よろしくお願ひしたい。

菅谷委員：高校においては、生徒に係る情報の引継ぎが長年課題になっている。どう改善すればよいか。宇都宮市での引継ぎについて伺いたい。幼稚園から一貫した取り組みとして、学校間のつなぎ目のところでの取り組みについて紹介願ひたい。

事務局：幼・保と小学校間、小学校と中学校間において、それぞれ小学校教員が幼保を、(学校教育課)中学校教員が小学校を実際に訪問し、3月に個別の引継ぎをしている。

菅谷委員：中学校と高校の間にはハードルがあり、事前の情報交換がうまくいっていない。事前に情報を交換し、高校として生徒をどう受け入れていけるかを考えていきたい。

福田副会長：基本目標4と5に関連する学校における働き方改革について、志が高い先生ほど順応できないのではないかと。働き方改革を進めていくことで失うことがあるような気がする。バランスが大切だと思う。

事務局：働き方改革と教育の質とのバランスを考えて、業務の見直しを考えたい。学校は、(学校教育課)コロナ禍で起きた問題について、これまでの取組をもう一度見直すチャンスと捉えている。教育の質を担保しながら、よりよい学校の取組としていきたい。

松本委員：コロナ禍で本当に必要なものが何なのかを考えた。行事等は学校規模により影響を受ける。これが良い方に働くように進めていきたい。

菊地委員：中学校では、あまり働き方改革は進んでいない。課題は山積している中で、教員は頑張っている。やはり学校行事は大切であり、行事を行うことで学校に活気が戻ってきた。仕事の削減は難しい。先進的な事例をもとに、少しずつ時間をつめていきたいと考えている。